

(仮称)日本語支援ステーションの設置について

1 日本語指導等が必要な児童生徒への支援の状況

現在、日本語の理解が十分でない児童生徒については、在籍校と保護者からの依頼を受け、国際教育コーディネーターによるアセスメントを経て、日本語指導員や学校生活適応支援員を学校に派遣しています。

(1) 学校生活適応支援

「JSL評価参照枠 全体」を用いたアセスメント結果が、ステージ1およびステージ2の児童生徒を対象に、学校生活のスタートにおける支援を行うため、学校生活適応支援員を学校に派遣しています。

原則、3時間×12日間の支援です。母語対応ができない場合は、英語や、やさしい日本語で対応します。

(2) 日本語指導

アセスメント結果が、ステージ1～4であり、本人・保護者が日本語指導を希望した児童生徒を対象に、日本語指導員を学校に派遣しています。

原則、週1回1時間×2年間までとし、ステージ5に達する力をつけることを目指しています。

【参考】JSL評価参照枠 全体

ステージ	学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	支援の段階	
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	支援付き 自律学習 段階	
5	授業内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる		
日本語指導	4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	個別学習 支援段階
	3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	
日本語指導 学校生活 適応支援	2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	初期支援 段階
	1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる	

* 外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント
 (文部科学省初等中等教育局国際教育課) から引用

2 日本語指導等の実績

令和4年度（R4）は9月1日現在

（1）日本語指導を受けた児童生徒の母語言語別内訳（人）

	英語	中国語	タガログ語	スペイン語	ポルトガル語	ネパール語	モンゴル語	他言語	合計
H30	57	14	37	12	8	5	1	10	144
R 1	51	8	28	15	8	6	1	10	127
R 2	56	5	33	9	9	5	3	9	129
R 3	66	5	25	9	7	3	4	6	125
(R4)	48	7	21	10	4	6	2	4	102

英語が約4割を占めています。中国語は減少傾向にあり、コロナ禍の影響と考えられます。近年、モンゴル語対応が増えています。「他言語」の内訳は、アラビア語、韓国語、タミル語、タイ語、シンハラ語、ビサヤ語、ミャンマー語、フェロー語、ロシア語 等です。

現在は、日本語指導員26人で、10言語（英語、中国語、広東語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語、モンゴル語、ベンガル語、タイ語、ロシア語）に対応しています。

加えて、翻訳・通訳のみであれば、マレー語、ネパール語にも対応しています。

（2）学校生活適応支援を受けた児童生徒の母語言語別内訳（人）

	英語	中国語	タガログ語	スペイン語	ポルトガル語	ネパール語	モンゴル語	合計
H30	8	2	0	3	0			13
R 1	8	1	1	1	0			11
R 2	9	1	3	2	0			15
R 3	9	1	3	1	0			14
(R4)	1	1	0	0	0	0	0	2

令和4年度から、ネパール語とモンゴル語にも対応可能となり、学校生活適応支援員8人で、7言語に対応しています。

3 日本語指導等に係る課題（設置の背景）

現在は、就学手続き後、そのまま在籍校に通学する形となっており、日本語指導等の開始までにしばらく時間がかかります。

日本語の理解だけでなく、日本の生活習慣や学校制度に対する児童生徒・保護者の理解が十分でないことが多く、受け入れる学校の負担が少なくありません。

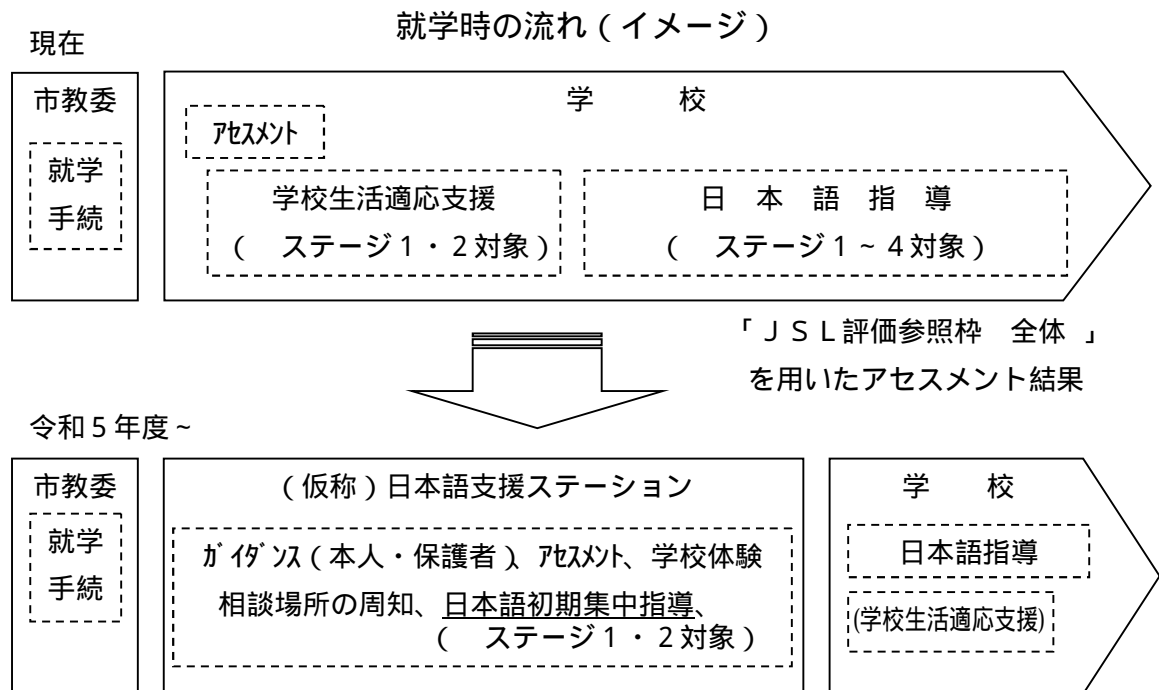
また、児童生徒・保護者の就学に伴う不安感の軽減や、就学後の相談体制の充実が必要です。

4 （仮称）日本語支援ステーションでの事業概要

日本語指導を必要とする児童生徒とその保護者等を対象とした支援の拠点となる（仮称）日本語支援ステーションを、諏訪幼稚園跡地に令和5年度から設置します。

国際教育コーディネーターが、日本語指導を必要とする児童生徒とその保護者を対象に、就学時ガイダンスを行うとともに、アセスメントの結果に応じて、日本語の初期指導を一定期間集中的に行うことで、在籍校にスムーズに適応できるよう支援します。

また、就学から卒業までの継続的な支援を行います。



5 設置によるメリット

- ・児童生徒への支援に加え、保護者への支援が充実する
- ・児童生徒・保護者が、現在よりも短期間で日本の学校教育へ理解を深め、より安心感をもって学校生活をスタートできる
- ・日本語習得および学校生活への適応が早まる
- ・受け入れる学校の負担が軽減される
- ・児童生徒・保護者が、就学後も相談・面談できる場所を確保できる
- ・国際教育コーディネーターが常駐し、支援教育課のスタッフや関係機関と連携した、適時適切な支援につながる

6 年間の利用数（見込み）

- ・就学時ガイダンス対象：新就学児童 20～30 人、転入児童生徒 70～80 人
- ・初期集中指導対象：30～40 人
- ・教育相談：延べ 500 件程度
- ・通訳・翻訳：延べ 150 件程度

7 運営体制（案）

- ・支援教育課指導主事
- ・国際教育コーディネーター
- ・ステーション支援員
- ・日本語指導員
- ・学校生活適応支援員

8 初期集中指導カリキュラム（案）について

（1）目標

学校生活で最低限必要な日本語（サバイバル日本語）を身に付け、友だちや先生に自分の意思を伝えようとすることができる。

（2）基本日課

朝の会	9:30～9:40	荷物整理・日直・健康観察・宿題チェック
1校時	9:45～10:35	日本語の学習（「学習項目一覧」参照）
2校時	10:45～11:35	書字・活動（ア行～ワ行・日本の遊び 等）
帰りの会	11:40～11:50	連絡帳記入・日直・配付物持ち帰り・下校の約束

初期集中指導は、原則 10 日間で実施します。

(3) 学習項目一覧

日 目	学習テーマ	目標	学習内容
1	・挨拶 ・自己紹介 ・学校探検	自己紹介できる 校内の名称を知る	基本的な挨拶、 教室・トイレ・保健室・体育館・ 下駄箱 等
2	・学校のきまり ・教室のことば	きまりが分かる 簡単な指示が分かる	登下校、教室内でのルール、 教室内での指示のことば（起立・ 礼・着席 等）
3	・カレンダー ・天気 ・学校行事 ・給食のことば	日付や曜日が分かる 学校の行事が分かる 給食ことばが分かる	○月○日○曜日 天気は○ 1年間の行事、流れの確認、 いただきます 等
4	・体 ・病気 ・欠席連絡 ・掃除のことば	体の名前を覚え、 不調を伝えられる 掃除の指示が分かる	目・耳・鼻・口・のど・頭・首・ 腕・おなか・足 等 痛い・苦しい・かゆい 等 清掃用具の名称、 掃く・拭く・運ぶ 等
5	・家族 ・気持ちの ことば	家族を紹介できる 気持ちを伝えられる	お父さん・お母さん・お兄さん・ お姉さん 等 嬉しい・楽しい・悲しい・ イライラする 等
6	・持ち物 ・教室にある もの	学用品の名前、数え 方が分かる	鉛筆・消しゴム・ノート・ 教科書・つくえ・いす・黒板・ チョーク 等
7	・教科名 ・時間割	教科名、時間割の言 い方が分かる	○時間目 国語・算数・理科・社会・英語・ 休み時間 等
8	・算数	数字、算数の学習語 彙が分かる	数字、筆算のやり方の確認
9	・お金	値段を聞くことがで きる	1円・5円・10円・50円・100円・ 500円・1,000円・5,000円・ 10,000円、いくらですか？
10	・まとめ		

その他に、休み時間の過ごし方・給食当番見学（諏訪小・常葉中にて）等

日本語指導および多言語支援の拠点「(仮称) 日本語支援ステーション」

《設置の背景》

本人・保護者の、
日本での学校生活への不安軽減と
就学後も切れ目ない支援が必要

市立諏訪幼稚園の跡地に
(仮称) 日本語支援ステーションを設置

現状

- ・ 就学手続き後、そのまま
すぐに在籍校へ登校
- ・ 日本語指導員等を学校に派遣
- ・ 国際教育コーディネーターの相談対応
は週2体制

課題

- ・ 日本語指導員等の開始までに
タイムラグが出る
- ・ 受け入れる学校への負担が
少ない
- ・ ガイダンスや相談対応など、
毎日に対応できない

《主な事業内容》

- 日本語初期集中指導 (2.5時間×10日間のプログラム)
- 小学校入学前の「就学前ガイダンス (プレスクール)」
- 中学生のための進路ガイダンス (入試制度や特別募集等)
- 多言語による相談・情報提供 (保護者) **相談 延べ500件(見込み)**
- 学校への支援
(配付物などの翻訳、保護者と学校の面談時の通訳など) **通訳・翻訳 延べ150件(見込み)**
- 支援教育課・関係機関と連携したタイムリーな支援

《就学手続きから在籍校受け入れまでの流れ (令和5年度～)》

ガイダンス

- ・ 支援教育課で就学手続き後、直接 (仮称) 日本語支援ステーション
に案内
- ・ 日本の学校の仕組みや学習の仕方、学校生活などについて紹介
- ・ 就学時の書類作成など保護者をサポート
- ・ 日本語指導などについて説明し、指導についての意向を確認

**新就学時(外国籍)… 20~30人
転入(帰国)児童生徒数… 70~80人**

アセス メント

- ・ 日本語の習得状況のアセスメント実施
- ・ アセスメント結果に応じて日本語初期指導 (プレクラス) を案内
※ 日常的な話題が理解できる場合は在籍校へ (週1の日本語指導)

初期集中指導対象人数… 30~40人

初期 集中指導

- ・ 簡単な日常会話や指示など集中的に指導
- ・ 日本の学校の見学 (諏訪小学校、常葉中学校)
- ・ 初期集中指導期間中、在籍校の先生とコミュニケーション

日本語指導対象人数… 120~140人

- その後、在籍校に通学 (学校生活開始)
- ・ 学校生活適応支援員や日本語指導員を週1回程度派遣し、在籍校での指導・
支援を継続
 - ・ 指導主事や国際教育コーディネーターが在籍校を訪問、学校生活に馴染める
ようサポート

《運営体制》

- ・ 支援教育課指導主事
- ・ 日本語指導員
- ・ 学校生活適応支援員
- ・ 国際教育コーディネーター
- ・ ステーション支援員